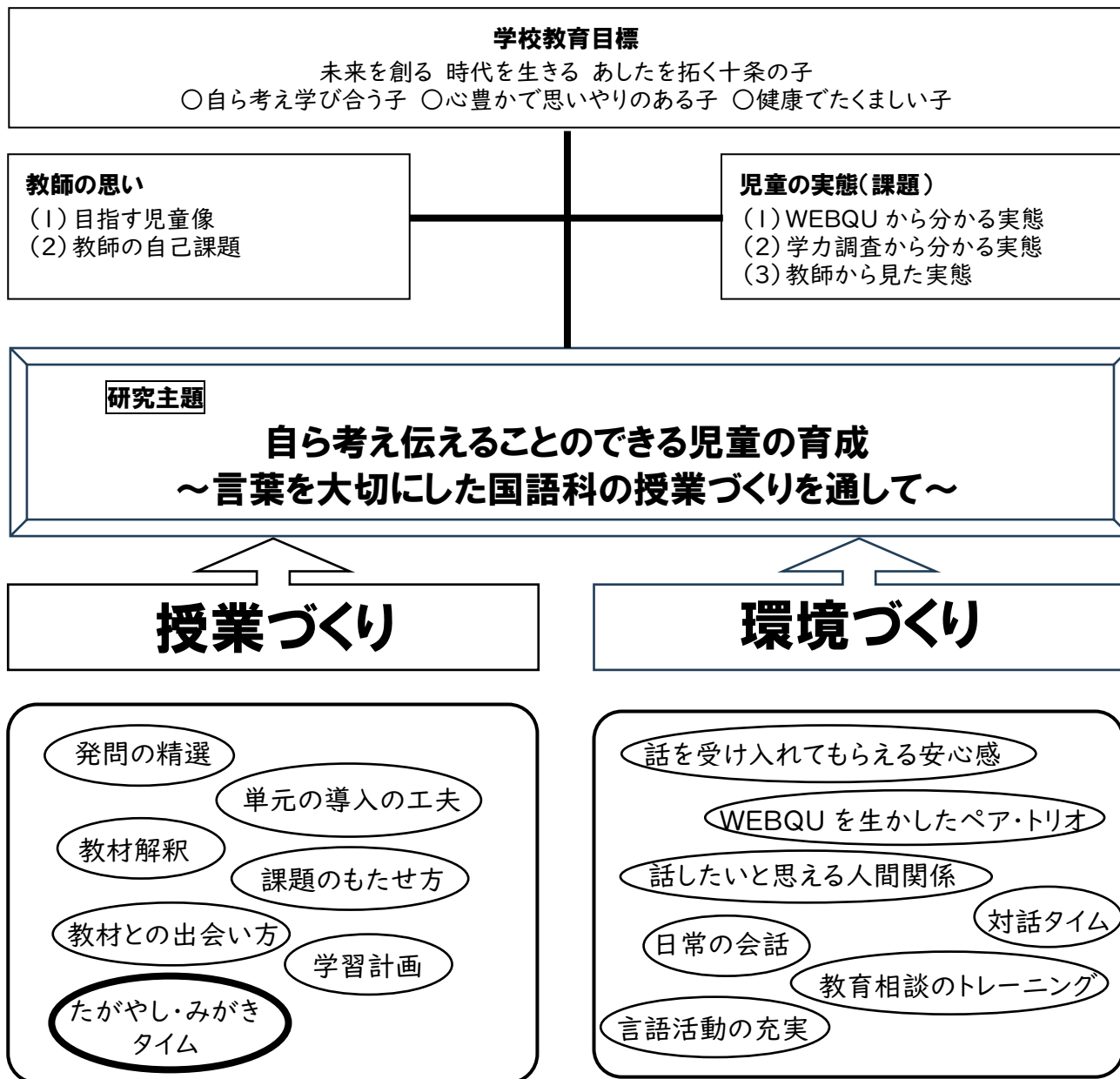


1 令和8年度の研究主題について

自ら考え伝えることのできる児童の育成
～言葉を大切にした国語科の授業づくりを通して～

2 研究構想図



3 研究主題の設定理由

- (1) 昨年度は自ら考えを伝えることのできる児童の育成を目指して、様々な言語活動を通して考えを聞いたり、伝えたりすることができるように研究を進めた。学びの系統性を考え、国語科の「話すこと・聞くこと」の単元で研究授業を行ってきた。
- (2) 研究の前半では、伝えるためには「聞くこと」ができないと伝える気持ちにならないことや、話しやすい環境をつくるために WEBQU を活用してペア・トリオを組むことが重要であることが分かってきた。協議を進める中で、「話すこと・聞くこと」の単元では、定型文のような会話が多く見られた。講師からの助言もあり、児童が多様な考えを思いつき、伝えたいと思うためには、物語文や説明文の読解の方がよいのではないかという考えに至った。
- (3) 物語文の研究授業を通して、話しやすい環境をつくるための WEBQU の活用は大事であることはもちろんのこと、教材の導入の仕方、発問の仕方、教材との出会い方、学習計画の立て方などで、児童の思考が大きく変わることに気付くことができた。
- (4) 言葉による対話をしやすい学級運営や、自分の話を受け入れてもらえる安心感の充実といった環境の面と、発問や導入などの教師の言葉などを教材研究によって突き詰めていく授業づくりの面の双方から手だてを講じていくことで、自ら考え伝えることのできる児童が育成されていくと考えた。

4 研究方法

